

## 評価委員会総合評価

研究課題名：沖合・沿岸津波観測等による津波の高精度予測に関する研究

評価委員

委員長：古川信雄

委員：小泉尚嗣、田中正之、渡辺秀文、泊 次郎

評価年月日：平成 25 年 9 月 25 日

### 1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

### 2. 総合所見

本研究では、沖合に設置された GPS 波浪計や海底水圧計で得られる津波波形データの逆解析による津波波源推定手法の開発、沿岸津波波形の即時的計算手法の開発、遠地津波の減衰特性解明とモデル化が行われ、所期の目標が達成されている。また、津波を発生させる M8 以上の巨大地震では、3 次元的な断層幾何形状の把握が必要であることを明らかにし、学術的にも大きな成果が得られている。さらに、観測誤差を少なくした新型の海底水圧計を開発した点も当初の想定にない成果である。

東日本大震災は、津波研究に関する種々の課題を与えた。本研究で得られた研究成果は、気象庁における津波の予測精度向上や津波警報解除の判断、津波予測システムの更新計画に資するものであり、津波災害の軽減を図る上でも社会的意義は大きい。

以上のことから、本研究は、適切な目標設定と研究体制のもと着実に実施され、当初想定した成果が十分に得られた優れた研究であったと評価する。